

ESDのためのKODOMOラムサール<周南>
～持続可能な地球のために、みんなで湿地をサステイナブル～
参加者募集要項

1. 趣旨・目的

ラムサールセンターは今年度から、アジアと日本の湿地の子どもたちといっしょに、「持続可能な地球のために」学び、行動していく「ESDのためのKODOMOラムサール」活動をスタートさせました。日本政府の提唱で国連が推進する「ESD（持続可能な開発のための教育）」運動に連動しての3年計画事業で、湿地の保全と賢明な利用をフィールドで実践、学習して、「持続可能な社会を実現するための人づくり」を目標にしています。

環境省はじめ、企業、NGO、大学・研究機関、専門家と協力して活動に取り組み、「国連ESDの10年（DESD）」のゴールとなる2014年の「ESDの10年最終年会合」（日本開催）への具体的な貢献をめざします。

この運動の一環として、11月19～20日、「ESDのためのKODOMOラムサール<周南>」（地球環境基金助成）を、山口県周南市の八代盆地で開催します。このイベントは、周南市に、新潟県佐渡市、兵庫県豊岡市、鹿児島県出水市の市長が集まって開かれる「生きものと人・共生の里を考えるシンポジウム」に連動、協賛しておこなうもの。同シンポジウムの今年のテーマは「未来につなごうとき・こうのとりのつと子どもたち」で、4市および韓国の子子どもたちが招かれて参加することが決まっています。

大型の野鳥と人々の暮らしの調和をメインテーマに、子どもたちにできることを、子どもたち自らが考えるこの活動に、全国のラムサール条約登録湿地からの子どもの参加を募ります。

2. 概要

- ◆期 日：2011年11月19日（土）～20日（日）＊1泊2日
- ◆開催地：山口県周南市八代・八代盆地
- ◆会 場：鶴いこいの里交流センター
- ◆主 催：ラムサールセンター（RCJ）、ESDのためのKODOMOラムサール実行委員会（RCJ、積水化学工業ほか）
- ◆協 力：周南市、周南 生きものと人・共生の里を考えるシンポジウム実行委員会（予定）
- ◆協 賛：積水化学工業株式会社
- ◆助 成：環境再生保全機構地球環境基金

山口県周南市八代盆地について

山口県周南市八代盆地は、江戸時代からつづくナベヅルの越冬地です。毎年10月、中国やシベリアの繁殖地から渡ってくるナベヅルは、3月に繁殖地に帰るまでの約4か月を、この八代盆地の田んぼですごします。ナベヅルは江戸時代の終わりまでは、日本の各地に渡って越冬しましたが、明治以降、狩猟や、生息地の減少、人々の生活スタイルの変化などで、次第に数を減らし、いまでは鹿児島の出水平野と、八代盆地だけが、定期的恒常的な越冬地になってしまいました。そのなかでも八代に渡ってくるナベヅルの数は、30年前までは100羽を超えていましたが、いまでは10羽以下に減ってしまいました。

地元の人たちは、ツルの数を昔のように回復して、日本の伝統的、典型的な「里山の村」を復活させようと、ツルのねぐらや生きものの豊かな田んぼづくりに取り組み、子どもたちも協力しています。

3. 募集対象、人数

全国 37 のラムサール条約登録湿地およびその他の湿地で活動している、湿地に関心のある小学生（5年生以上）～高校生。定員 10 人。応募者が多数の場合は選考します。

4. 費用

(1) 子ども：参加費 20,000 円（現地までの交通費、宿泊費、食費などを含みます）

5. プログラム（予定）

1日目 11月19日（土）

- 13:00 周南市集合、バスで八代盆地の会場へ
- 14:00 歓迎会（鶴いこいの里交流センター）
実行委員長挨拶 自己紹介、プログラム発表
八代盆地とツルの越冬状況についての説明
子ども湿地交流（ESDのためのKODOMOラムサール）
- 15:00 子ども交流プログラム①

フィールド学習 「八代の里とナベヅルを知ろう」
（ツルが一日生活する田んぼ、鶴の墓、ねぐら、
野鶴監視所・ねぐら入りなど見学）

案内役：地元の子どもたち

サポート：八代のツルを愛する会、ナベヅル環
境保護協会など地元のみなさん

- 17:30 子ども交流会
地元料理／ESDのうた紹介
- 19:00 子ども交流プログラム②
グループディスカッション
「生きものと人が共生するために」
- 21:00 交流センター宿泊

2日目 11月20日（日）

- 早朝 子ども交流プログラム③
フィールド学習
野鶴監視所（ツルのねぐらから田んぼへの
飛び立ちを観察）

朝食

文化会館へ移動（大型バスで移動）

「生きものと人・共生の里を考えるシンポジウム」に参加

- 9:00 開演
市長挨拶・来賓挨拶（環境省・文化庁・山口県知事）
シンボルマークの決定と受賞者表彰 なかはらかぜ先生による講評
- 9:30 特別講演
動物の鳴き真似を通じて“自然のたいせつさ”について
4代目 江戸家猫八

<一般対象>

- 15:30 ツル ミニフォーラム
韓国学者及び日本の学者による
ツル状況
講師：李宇新（国立ソウル大学教授）
- 17:00 ねぐら入り見学
- 関係者ホテルへ移動（公用車／送迎バス）
- 18:00 実行委員会（関係者出席）
- 18:30 円卓会議（国・県並びに4市長）
これからの鳥類の分散について
山階鳥類研究所 林 良博所長
関係者交流会（会場：グラマシー）
各市長並び出席者の交流
費用参加者負担（4000円程度）
アトラクション（回天出撃太鼓）
- 21:00 終了

- 10:20 アトラクション
伝統舞踊「鶴の舞」(八代小学校の生徒たち)
- 10:30 「生きものと人・共生の里を考える 子ども公開シンポジウム」
子どもによる市長紹介(各1分)
市長による共生の里の概要の紹介(各3分) 佐渡市/出水市/豊岡市/周南市
子ども活動報告(各3分) 佐渡市/出水市/豊岡市/周南市/韓国/
各地のラムサール登録湿地
- 11:30 公開子ども討論会「生きものと人が共生するために」
まとめのメッセージ/ポスターづくり
- 12:45 メッセージ/ポスターを周南市長に贈呈
- 13:00 シンポジウム終了

6. 参加の条件

- (1) 自然環境とボランティア活動に関心をもち、積極的に交流でき、行動できること。
- (2) 身近にある湿地の情報をみんなに伝えたい、湿地のこと(とくに湿地の生きもの)を知りたい、学びたいと思っていること。
- (3) イベント終了後、1か月以内に簡単なレポートを提出すること。
- (4) イベント開催中の怪我や事故などについては、原則として自己管理、自己責任です。この点を理解、了承すること。
- (5) 保護者の了解を得ること。
- (6) エコクラブやNGOなどの団体に所属して活動している子どもは、団体の了解も得ること。

7. 応募方法

参加希望者は、添付の「応募用紙」と「参加したい理由」に記入し、ラムサールセンター事務局まで、郵送・FAX・メールで申し込んでください。

8. 応募締切 2011年9月30日(金)

<参加申し込み・お問い合わせ>

ラムサールセンター 担当: 中村玲子(なかむられいこ)・渡辺美沙(わたなべみさ)

〒146-0084 東京都大田区南久が原2-10-3

TEL: 03-3758-7926 FAX: 03-3758-7927 E-mail: ramsarcj.nakamura@nifty.com